

障がい児保育研修会

「育ち合う関係づくりを考える」

日時/11月2日(木) 会場/大阪市立天王寺区民センター
講師(本文)/大阪YMCAサポートクラス 加藤 義弘 氏



近年、インクルージョンの広がりとともに特別な保育的ニーズ、あるいは支援を必要とする子どもたちを積極的に受け入れる園が増えてきています。世の中のにも共働きの家庭が増え、保育園への入園者が増える中で、保育者はもともと成長が著しい乳児期から幼児期にかけての大切な時期の保育を担います。保育園にいる子どもの中には、あきらかに障がいを抱えた子どももいれば、障がいと言えないまでも発達感が気になる子どももいます。

今年度の研修では、様々な発達段階にある子どもたちが互いに学び、育ち合う関係作りの環境をどう保育者が整えていくかについて、「社会性(ソーシャルスキル)」の観点から話を進めていきました。社会性は早期から取り組むことが求められています。子どもたちが過ごすどの環境にも一定の社会性は存在します。環境や人と上手に関わり適応していく力は進むべき未来の選択肢を増やすだけでなく、将来の幸福や成功、社会的自立につながります。社会性は出会う人、過ごす環境に大きく影響を受けながら育まれます。園は幅広い年齢の子どもたち同士が出会う場であり、保育者からの温かいまなざしの中で豊かな社会性と心が育まれます。社会性は学びの積み重ねが必要のため、家庭や園、公共の場所などで学ぶ必要性があります。子どもの中には経験だけでは学びを深められない子もおり、その時は意図的に伝えないといけない必要性があります。集団活動は子どもの社会性を育むよい機会です。子どもは一人ひとり違いがある



ため、異なる価値観がぶつかり、問題も起きやすくなります。そのような場面は大きく成長するチャンスです。子どもが互いの考えを認め合い、適切な関係を構築するには保育者の関わりや力が不可欠になります。

保育や遊び、園での行事はたくさん、の社会性を学ぶ機会があるため、この研修を通じて学んだ社会性の捉え方や目標設定、学ぶための環境、手順をぜひ園で実践していただきたいと思えます。限られた時間の中でしたが、たくさんご参加いただけたこと、感謝申し上げます。